

# 府立人研通信

大阪府立学校人権教育研究会  
第3号  
2019年8月30日発行

地域交流部会にお越しいただき、ありがとうございました。



皆様、まだまだ暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか？  
府立人研通信第3号では、7月5日（金）、12日（金）に開催された  
地域交流部会の報告をさせていただきます。  
当日お越しいただいた皆様、これをお読みになっているあなた、  
いつもありがとうございます。



## 地域交流部会

今年度の地域交流部会は、7月5日（金）に豊能（旧1学区）、三島（旧2学区）、大阪市内（旧3・6学区）、中河内（旧5学区）、南河内（旧7学区）、泉北（旧8学区）、泉南（旧9学区）で開催、北河内（旧4学区）では12日（金）に開催した。

### 豊能(旧1学区)

#### スマホ・ケータイをめぐる 事例と指導について

日時：7月5日 14:00～

場所：府立北野高校

六稜会館3階六稜ホール



まず、スマホ・ケータイをめぐる事例と指導について、府立桜塚高校と府立豊中高校より報告を受けた。SNSのトラブルからいじめに発展することは、ほとんどの学校で起こりえるだろう。また、両校から、スマホ・ケータイをめぐる課題についての教職員研修や生徒向け講

演会の講師の紹介もあった。

その後、参加者（高校18名、中学校6名、小学校6名の30名）が5つの班に分かれて交流した。

ネットのトラブルの話を手際よく聞き取っていくと、その子どもの生活背景が見えてくる。見えない部分での子どもとのつながりをしっかりつくるには、子どもとその背景を深く理解した上で、見えている部分での子どもをしっかりつなぐ必要性を改めて強く認識した。

### 三島(旧2学区)

#### 校種間連携で考えるキャリア教育 ～AI時代を見越して～

日時：7月5日 14:00～

場所：府立春日丘高校 増築棟

「AIの存在感が増すこの時代に子どもたちにつけていきたい力とは何か」を討議の軸に、校種による問題意識の差異や取り組みの特徴を交流でき、有意義な場となった。AIが従来の仕事を奪っていくのではないかと問題提起するドキュメンタリー番組を視聴し、各校での実践

をもとに交流・討議したが、「好きなことに夢中になれるよう」「他者と交わってお互いの意見を受け止められるよう」子どもを育てていくことの必要性は共通していたようだ。いたずらに危機意識を煽られないように注意しつつ、子どもの自己有用感を育てる取り組みをどう進めていくのか。これからも実践交流を深めたいところである。

小中学校の教員、府立学校教員がほぼ同数の参加であった。府立人研の呼びかけに応じて参加して下さった小中の教員に感謝したい。



**大阪市内(旧3・6学区)**  
**「いじめ」のきざしに  
 気づくにはどうしたらいいの？**

**日 時：7月5日 14:30～**  
**場 所：府立今宮工科高校 視聴覚室**

第1部では、大阪市内立中学校の元教員から、中学校でのいじめ防止の取り組み、いじめ防止やクラス運営での成果と課題について、具体的な事例をもとにした報告があった。続いて、府立茨田高校から自校での取り組みやクラス運営での課題について報告していただいた。

第2部では、5名～6名のグループに分かれて、ワーク(架空事例 高校での対人トラブル)を実施した。SC(スクールカウンセラー)の方から提示していただいた「SCの視点からのアプローチ方法」を参考に、活発な意見が交わされた。続いて各班から、交流内容・感想について報告があり、4名の中学校の先生方から、当日の感想も含め、いじめに対応する際の中高での連携の必要性などが訴えられた。「いじめを未然に防ぐ方法として、多文化や障がい、マイノリティの理解など、異なる他者と思いを共有していくための知識と振る舞いを学習する授業が有効」と



として、多文化や障がい、マイノリティの理解など、異なる他者と思いを共有していくための知識と振る舞いを学習する授業が有効」と

のことであった。府立人研が担う役割は、たいへん大きいものだ改めて感じた。



**北河内(旧4学区)**  
**生徒の抱える困難を考える  
 ～居場所カフェの事例から～**

**日 時：7月12日 14:30～**  
**場 所：府立野崎高校 図書室**

今回は、「居場所カフェ」を切り口に、子どもが抱えるしんどさについて考えた。府内でカフェの実施に携わっているNPO法人あそーとの石原昂侑さんと、一般社団法人officeドーナツトークの奥田紗穂さんを講師としてお招きした。そのお話で、発達障がいや経済的搾取、DVといった様々な困難が、カフェという場だからこそ浮き彫りになってきたという事例が挙げられた。印象的だったのは、「居場所カフェ」が、予め話すことを整理して臨むことが多い各種面談とは違い、「なんとなくしんどい子」が本当に困る前に支援者と繋がることのできる予防支援であるということだ。

後半は対談形式で参加者の質問に答えただけ、意見交換も行った。校種を超えて学校というもののあり方を再考する良い機会となった。



## 中河内(旧5学区) 進路保障のあり方

—地域で「人」を支える—

日時：7月5日 13:30～

場所：大阪樟蔭女子大学

田辺聖子文学館、高智館 円形ホール

初めに、田辺聖子文学館の見学があり、学芸員の住友元美さんに文学館をご案内いただいた。6月6日に逝去された田辺聖子さんの作品の数々は、戦前、戦中、戦後の貴重な歴史的資料でもある。女子教育の歴史の1ページを垣間見ることができた。

その後、高智館 円形ホールへと会場を移し、次のように多くの報告を受けた。

- ◆大阪樟蔭女子大学 教授 田原 広史さん  
「女子教育の歴史を紡ぐ 樟蔭の100年」
- ◆東大阪市立意岐部中学校夜間学級  
東大阪市立布施中学校夜間学級  
「夜間中学運動の歴史～現在」
- ◆中河内地域若者サポートステーション  
田中 義晃さん「地域 de 支援」
- ◆府立学校卒業生

「無窮花(ムグンファ) 東大阪の民族学級」  
「My family イスラーム ～私は日本で働くのっ!!～」  
「リトル・ベトナム八尾 ～この町で暮らすために～」

参加者の所属は、小学校、中学校、民族学級、府立学校(高等学校〈全日制・定時制〉、支援学校)、大学、行政、就労支援施設、各種法人と、校種職種を超えた貴重な交流の場となり、今後も中河内地域の児童・生徒・学生、地域の人々の進路保障のあり方について話し合う機会を広く持たたいとの声が多く寄せられた。

また、この中河内地域交流部会は参加者にとって、“進路保障”という言葉の意味を今一度考える貴重な機会となった。



当初、中河内地域交流部会のテーマを「進路保障のあり方 —地域で“子どもたち”を支える—」としていた。しかし、地域で支えるのなにも“子どもたち”ばかりではない、ということから、サブテーマを再考し、「—地域で「人」を支える—」とした。

## 南河内(旧7学区)

### 入門編！ SSW の役割と実践に学ぼう！

日時：7月5日 14:30～

場所：府立生野高校 時習館 多目的ホール

前半は、SSW(スクールソーシャルワーカー)の三木泉さんから学校の課題であるいじめや不登校、暴力行為等の問題行動の表面的な部分にだけ着



目するのではなく、背景にある貧困やDV、発達課題、身体的な悩み、人間関係等を含めて様々な人が違った角度から生徒を見ることの重要性を教えていただいた。エコマップを用いたアセスメントシートを作成し、支援の目標を設定して教員がそれぞれの役割に応じて粘り強く生徒に関わることが求められている。

後半のSSWと協同した中学校の実践報告では、学校全体として生徒をサポートしていくことや生徒の困りごとを聞いた上で目標設定することの重要性が話された。SSWと生徒の背景を分析し生徒の状況を共有することで、自信を持って

継続的に生徒と向き合うことができ、その結果、生徒の様子に良い変化が見られたということだった。会の最後には、グループで内容を分かち合うことで、より学びが深まり、大変意義のある学びの場となった。



## 泉北(旧8学区)

### 進路保障を生み出す校種間連携とは？

日時：7月5日 14:00～

場所：府立堺工科高校 定時制棟

泉北地域では、府立和泉総合高校と府立和泉支援学校から報告を受けた。

和泉総合高校は、工業高校から2005年度にクリエイティブスクール（総合高校）、2018年度よりエンパワメントスクールに改編された。校種間連携については、小学校と工作教室やプログラミングの体験授業で連携し、泉大津市の3つの中学校との連携（中学校のキャリア教育への参加、授業公開による中学校教員の高校理解）や和泉支援学校との連携などを行っている。特に和泉支援学校と協同した支援の取り組みを通じて、生徒が成長したとの報告があった。

また、和泉支援学校からは、和泉総合高校の生徒に対して行っている個別支援「体幹トレーニング」、「コグトレ」、「ビジョントレーニング」など実際の取り組みについての紹介があった。その後、2つの事例から、生徒の実態とその支援方法を少人数グループに分かれて検討し、それぞれのグループの意見を全体で共有した。今回の交流会を通して、校種間連携の重要性を再認識するとともに、生徒の実態把握を中心に「今、できること」を考えることが大切であり、子どもを中心にすえた人権教育が大切であると感じた。



## 泉南(旧9学区)

### 通級指導教室の取り組みと就職に向けた進路保障について

日時：7月5日 14:00～

場所：府立岬高校 会議室



泉南地域では、はじめに、府立岬高校から学校の取り組みと今年から始まった通級指導の話があった。岬高校では、全生徒にルビを付けたプリントを使用している。その理由の一つとして、「音の情報で、その言葉の意味を憶えている生徒にとっては安心できる」と話されていた。また、岬高校にしかない場所として“快適すぎる教育相談室”の紹介があった。校内フィールドワークで、“快適すぎる教育相談室”にある「yogibo」というソファを体験した。さらに、進路指導主事より進路実績や支援の必要な生徒をどのように進路に結び付けていったかの実践報告があった。

次に、ハローワーク泉佐野の高卒求人担当の方より、離職率などのデータをもとに現在の求人の実態を説明していただいた。また、仕事を「ライスワーク」、「ライクワーク」、「ライフワーク」ととらえるなど考え方の違いについてのお話があった。講演の中で、「モデルになる大人になろう」という話があり、生徒から教員も見られているということをもっと意識しなければならないと感じた。今後の課題として、学校園所までのつながりだけでなく、その後のハローワークなどへのつながりを考えていく必要がある。

## 府立人研 大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1丁目7番106号

府立柴島高等学校内

※通送便には「府立人研」とお書きください。

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通)

※お問い合わせはできる限りEメールをご利用ください。  
お電話の場合は、火曜日をお願いします。

E-mail [furitsuinken@nifty.com](mailto:furitsuinken@nifty.com) ホームページ <http://furitsuinken.in.cocan.jp/>

\*「府立人研通信」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。\*